

## 1. 研究テーマ

### 基礎・基本を定着させるための効果的な授業の組み立て

#### ～ 歌唱活動における授業分析をとおして ～

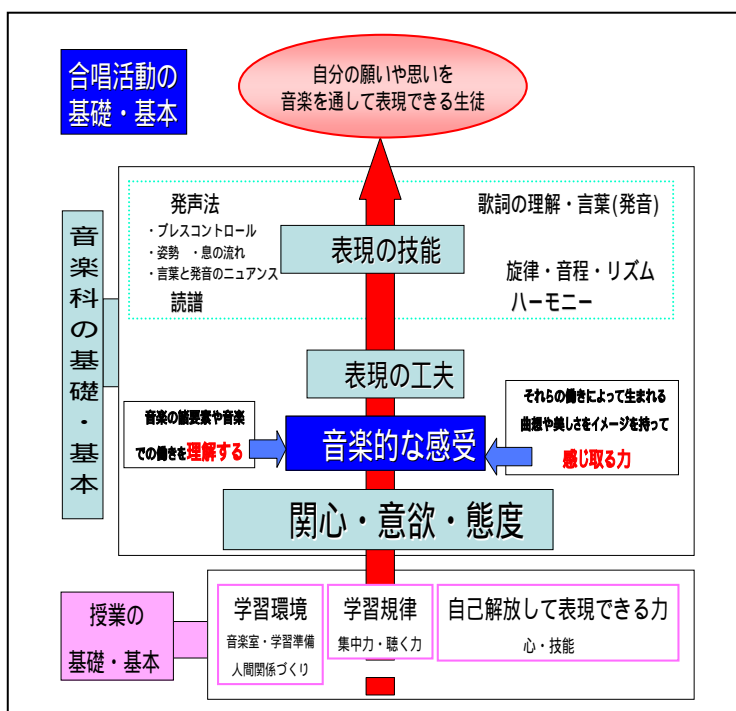
## 2. はじめに

平成 10 年に出示された現行の学習指導要領では、ゆとりある教育活動を展開する上で、「基礎・基本」の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実することの重要性が示された。さらに、「音楽活動の基礎的な能力を伸ばす」ことも目標に掲げられた。しかし、中学校の音楽の授業時数は、第 1 学年 45 時間、第 2・3 学年 35 時間と削減しており、現場の教員は、目の前にいる生徒達に基礎的・基本的な力をどのように定着させたらよいのか、日々悩んでいる。本研究では、合唱活動を中心とした実際の授業分析をおこない、限られた時間の中で、「基礎・基本」を定着させるために、教師はどのような働きかけをすればよいのか、効果的な授業の組み立てはどうかあるべきなのか、具体的に考察する。

## 3. 研究の概要

中学校 1 学年の歌唱活動を対象に授業見学をおこない、VTR による観察調査（総計 19 時間）をもとに A 教師と B 教師の授業分析をおこなった。教師の働きかけと生徒の活動の両方に焦点をあてながら、両者がおこなっているダイナミックな関わりを明らかにした。さらに、分析の結果効果的だとされた B 教師の手法を用いて、中学校 2 年生を対象に、歌唱活動の授業（検証授業）をおこない、用いた手法がどのような効果をあげたのか、生徒と授業者の変容について分析をおこなった。「基礎・基本」の定着のためのカリキュラム構成について提案をおこなった。

## 4. 本研究の内容



歌唱活動の基礎・基本とは、「授業の基礎・基本」と「音楽科の基礎・基本」の両面から考えていなくてはならない。(図 1) また、生徒自ら求めて技能を習得したいという「関心・意欲・態度」の情意面を高めることが必要であり、その情意面を揺り動かし、音楽的な質を向上させるために、「音楽的な感受の力」をいかに身につけさせるかが課題である。授業分析の結果、効果的な授業の組み立てとしては、次の 9 点が必要であることが明らかになった。

生徒におこなわせる主活動は、短い活動で、繰り返しの回数が多いほど効果的である。(図2～図6)

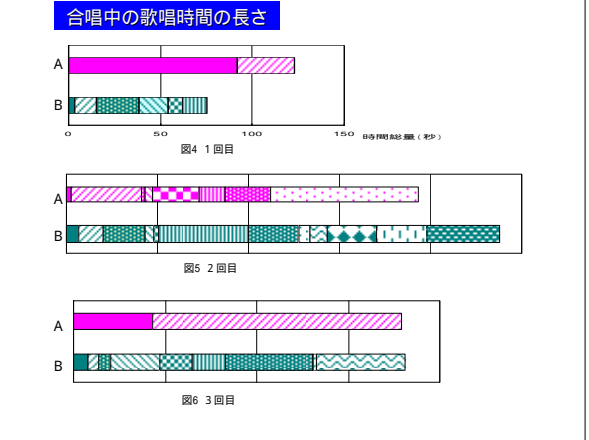
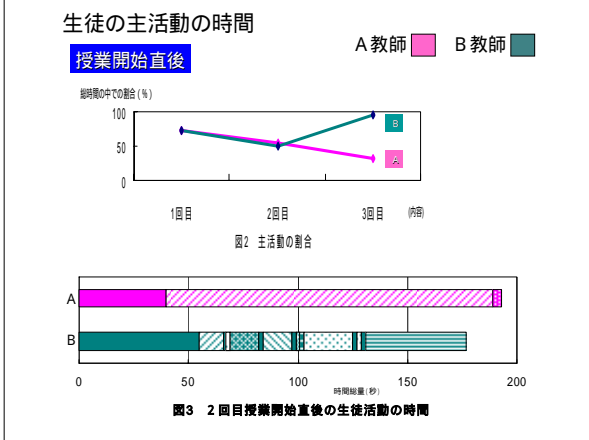
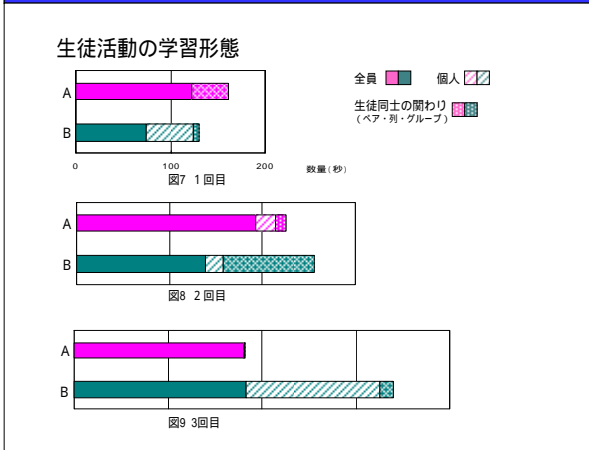


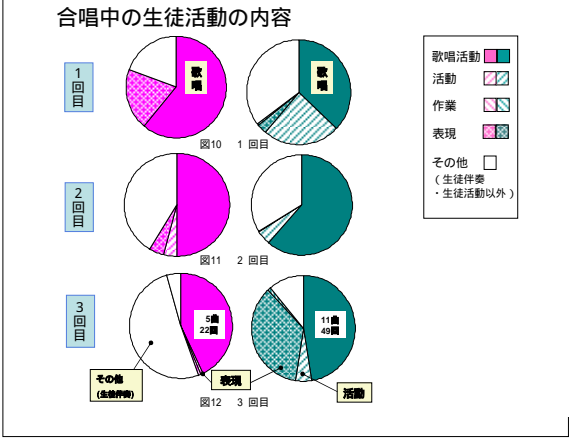
図1 合唱活動の基礎・基本

授業開始直後の学習形態は、「生徒同士の関わり」を、合唱中は「個」を意識した形態が効果的である。(図7～図9)

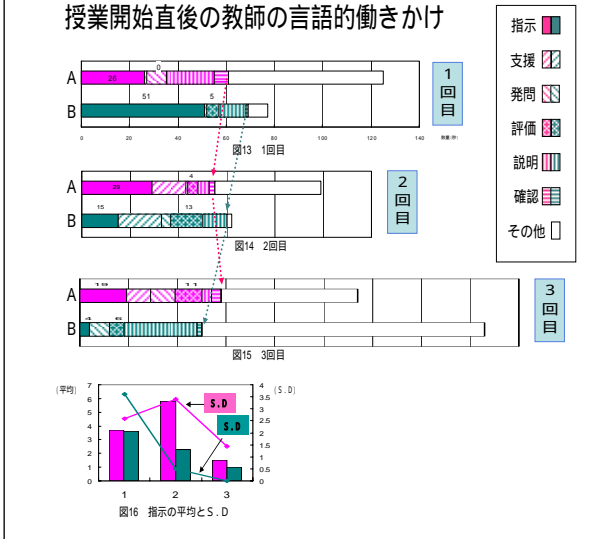


授業開始直後は、多様・継続・複合的な生徒活動をおこなうと効果的である。

合唱中は、多様・複合的な活動で、既習曲と新曲の効果的な繰り返しをおこなうと効果的である。(図10～図12)



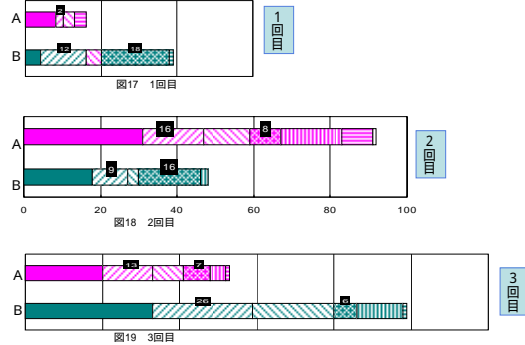
授業開始直後の教師の言語的働きかけ



授業開始直後の教師の言語的働きかけは、短く・テンポよく・具体的に・ユーモア溢れる働きかけを心がける。(図13～図16)

合唱中の教師の言語的な働きかけは、わかりやすく・短く・具体的に・テンポよく・適切な支援や評価や発問を心がける。  
(図17～図19)

合唱中の教師の言語的な働きかけ



授業開始直後のピアノによる働きかけは、言語的指示の代用になる。

合唱中のピアノでは、前奏や伴奏の時間を短く・多様な使用法を心がける。

ピアノ以外による非言語的な働きかけは、ゼスチャー・表情などが効果的である。

## 5. 検証授業の展開

「授業の基礎・基本（学習環境・学習規律・人間関係）」と「音楽科の基礎・基本」を常に授業者が意識し、生徒に意識させ自覚させる授業づくり

音楽科の授業と学級の連携（発展）・・・授業者と学級担任との連携

題材目標：「自分達の表現をしよう」

- 第1時 「集中力・聴く力・やる気」
- 第2時 「気づく・考える」
- 第3時 「自分の表現をしよう」
- 第4時 「自分達の表現をしよう」

## 6. 研究のまとめ

検証授業の結果、上記9項目の中で、特に「短い活動を、繰り返し、テンポよく」と「生徒同志の関わりと個を意識した学習形態」が有効であることが確かめられた。「授業の基礎・基本」と「音楽科の基礎・基本」と「情意面の高まり」の3つを関連づけた授業の組み立ては、効果的であり、初期の段階から、「音楽的感受と表現の工夫」を意識した活動を考えていくことは、その時間だけではなく、生涯にわたって楽しく充実した音楽活動ができるための基となる能力となる。教師が「見る」ことから「観る」ことへと変わる姿勢が大切であり、情報発信者としての役割を果たすことにより、生徒の育ちを支えることになる。

## 7. 今後の課題

今後は、「個」を重視しながら音楽能力を高める指導法、生徒・教師・教材のトライアングレーションの必要性、子どもをどう育てていきたいか、中学校3年間でどんな音楽的能力をつけたいかという長期的な視点を持ちながら、「段階的」「継続的」「繰り返し」の学習を組み立てること、自己評価の力を育てる授業の組み立て方、教師の音楽に対する厳しさの追求といった諸点について、更に追求していきたいと考えている。